



— 3 —

津 守 眞

### ○北欧の人々

ミネアポリスは、北欧系の人が多い。氣候が似ているので、北欧の人々が好んでこゝに移住したのである。北欧系の人々は、外から見るとすぐわかる。皆、美しい髪を持っている。きら／＼輝く金髪ではなくて、淡い黄色、雪のような金色である。誰が見ても、ほれ／＼とするような、落着きのある美しい髪の色である。

それから北欧の人は名前でもわかる。語尾に Son のつくのは、先ず間違ひなく北欧である。Anderson, Nicholson, Erickson, Nelson, Henderson, 等々。電話帳で、こういう名前を引いたら、数頁に亘つてのついでいる。

北欧の人達は落着いていて、親切なことで有名である。それから、スウェーデンの

人は、料理が巧いので有名である。

私の泊つていた家に、スウェーデンから十八の時に移民してきた、というおばあさんがいた。コーヒーが好きで、お菓子も焼くのが好きで、毎日のようにコーヒーを飲まないかと、誘いに來てくれた。両方ともなまりの強い英語で何時間もだべつた。

チャイルドウエルフェアに、ノルウェーから勉強に來ている、女子学生があつた。此の冬は、会う度に、早く家に帰りたい帰りたいと言つているが、念願叶つて一月許り前に帰つてしまつた。私が此処にきたばかりの頃、よく、寂しいだろうと言つて話しかけてくれた人である。

概して、私共日本の学生は、ヨーロッパの学生と落着いて話が出来る。困柄も似ている所が多いのであろうか。一晚、イギリ

スの学生、ノルウェー、オランダの学生と私と、ゆつくり話し合う機会があつた。いづれも、チャイルドウエルフェアを勉強している人々である。どの国も皆、キングクイーン或はエンペラーを持つていた。どの国もアメリカ程沢山の自動車を持つていなかった。どの国もテレビジョンが此の国のように普及してはなかつた。どの国もデート (Date) が此の国程流行ではなかつた。ノールウエーの学生が話していたが、

大学で教授が Date という語を訳すのに困つて、説明するのに一時間もかゝつたのである。

幼稚園の事をいろいろ聞いてみたが、アメリカと殆んど変りがないようである。制度上から云うと、オランダが日本に近いようである。幼稚園というところ、大が、三、四、五才の子供を扱い、公立もあるが私立が非常に多く、日本のように独立した施設になつてゐるものが多いそうである。此の人達は大きい、学校心理学者、或いは児童相談所に仿く人達である。それからイギリスも、ノールウエーもオランダも、そして私達の国も皆、戦争の被害を受け、爆弾を受けた国々である。そして戦争と軍隊を、極度に嫌悪する点においても、私達の意見

は、完全に一致してしまつた。これらの人々は此の夏で、それ／＼の愛する国に帰つてしまつた。

北歐と日本と云うと、世界の果から果で、最も遠い所であるけれども、人間の情には全く変りがない。どうか、こういう国々の人々と自由に交通しつゞけたいものである。

### ○東南アジアの人々

アメリカという国は、現代の世界で一番大きな国の一つである。そしていろ／＼の国の人々が集まる。ヨーロッパから移住して来た人々のみでなく、いろ／＼の國から学生が集まる。私のいるミネソタ大学だけでも五百人からの外国人留學生がいる。その中には、東南アジア諸國の學生も沢山いる。ビルマ・タイ・シンガポール・フィリッピン等々。

これらの國と日本とは、十年前に密接な關係にあつたわけである。日本が軍隊を進駐させたということ並びに、それらの國が日本軍を拒否し、或は受け容れたという点において、それらの國の人々と接する時、私は一種の感慨を禁じ得ない。一体彼らがどんな眼で日本を見ているであらうかと。私達の國は數年前に、それらの人々の頭の

上に爆彈を降らせたのである。

これらの國の中で特に、タイ、ビルマから来た人々に会う時、私達は一種特別の親しみを感じる。いつもアメリカ人に圍まれて生活している時、これらの人々に会うと何かほつとした氣持になるのである。私の圍りのアメリカ人は殆ど、例外なしに親切である。しかし、これらの人々と会うと、又全く別の安堵感を感じるのである。

私はこの人々に会うと、日本との戰爭中に、どうであつたか尋ねてみることにしている。或る人々は、日本軍の空襲に惱まされたと言ふ。私達自身、經驗があるだけに、その一言で充分に理解できる。私が爆彈を落したわけではないけれど、「すまなかつた」と云うと「That all right」だと云つて、ここにこと笑つてすますのである。そして二度目に電車の中で会つたり、道で会つたりすると、もう同國人のように親しくなつてしまふ。私が電車をおりても、まだ怒から手を振つてゐる。アジアの心持において私達は一致したものを持つてゐるのだろうか。アメリカ人のようにピチ／＼してノビ／＼してゐない。けれども私は親しみとなつかしきを感じる。むしろ、そのゆつくりと落着いて、慎しみのある物腰に親しみを

感ずる。

私達はよく、アメリカ人ヨーロッパ人は日本人を理解しない。日本文化を理解しないと言ふ。しかし私達、これらの同じアジアの隣國人を理解しているだろうか。彼らも彼らの誇りとし、愛着を持つ文化を持つてゐる。一体彼らの文化を理解しているだろうか。理解しようという努力をしているだろうか。

此の親しみを感じることで出来る人々、東南アジアの人々と、今度は軍隊を通してではなしに、人間と人間とが親しく往復し實際ができることを、心より望まざるを得ない。そして、そのためには、私達も亦、人間となつて、その人々を理解することが必須条件であり、共に生活する機会を持つような計画もほしいと思ふ。

これからの幼児教育の目標の中にも、いつの日か、これらの國々の人々と、交わることの出来ることを頭において、何かをしなければならぬと思ふ。

一体、何をしたらいいのだろうか。